

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471503981		
法人名	有限会社 楓		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地 (電話番号)	広島県福山市加茂町下加茂1251-7 (電話) 084-972-5050		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月8日

## 【情報提供票より】(平成20年11月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 12.5 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100		円

### (4) 利用者の概要(11月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしたかクリニック 森田内科クリニック おきとう歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「入居者、ご家族、そして地域の皆様との子々孫々のお付き合いを大切にします」の理念を掲げ、三つの具現化の方針を定め、利用者の方が普通に、自由に、その人らしく楽しく暮らしていけるように職員全員で支援している。住宅と田畑が並ぶ静かな自然環境に恵まれた地域にあり、地域の人々との交流も深く、顔馴染みの関係にある。ホームで催す「楓まつり」には地域からの参加やボランティアもあるなど、着実に地域の中での歩みが見られる。ホーム全体が一つの家族のような雰囲気である。また、個々のアルバムには利用者の日々の暮らしや、行事の時の優しい笑顔が見られる。日常生活の中ではゆったりと会話を楽しむ光景があり、じっくりと話ができる時間を大切に、一人ひとりの生活リズムに配慮したケアが実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議での提案をどのように役立てていくかがこれまでの課題であった。その一つとして玄関ホールに設置の消毒薬について、誤飲の危険性があるとの指摘に対し、早速職員で検討して改善に結びつけるなどして課題への取り組みがみられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価を実施する意義について、職員全員への周知徹底は今少しであり、職員全員で自己評価に取り組むことはできていないようであるが、これにはサービス評価の意義や目的を運営者や管理者が職員にわかりやすく伝えて行くことが、全員が前向きに自己評価に取り組むこととなり、そしてケアの振り返りや見直しにつなげるなどして、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	二ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、市及び地域包括支援センター職員、家族代表、町内会長、民生委員が参加し、利用者の近況やヒヤリハット、研修や評価の報告を行い、参加者からの意見や要望、地域からの情報等をいただいてサービスの改善に向けた取り組みに具体的に活かしている。運営推進会議以外にも勉強会(タウンソーシャルワーク)で市職員と交流したり、また市の担当課を頻りに訪問して相談するなど情報交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日常生活の様子や健康状態が伝わるように、毎月、「できること・いいこと」など、きめ細かい近況報告を手紙を添えて、「かえりだより」と共に家族へ送っている。また、いきいきした状態が伝わり安心されるように、毎月、一人ひとりの様子が分かる2~3枚の写真を選び、個別のアルバムを居室に置き、いつでも自由に見ることができるようになっている。年一回の家族会や、二ヶ月ごとの運営推進会議の時に家族の意見を出してもらい、運営に反映できるように努めている。また、家族が思いや気づきを遠慮なく伝えられるように苦情・相談箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の時の挨拶やお喋り、地域からの野菜や花の差し入れなど、馴染みの関係を築いている。町内会の行事の溝掃除などには職員が積極的に参加している。年一度の「楓まつり」には、地域の人がボランティアとして参加したり、地元の人を招待して交流に努めている。今後は、運営推進会議などで、地域の消防団や住民へ呼びかけ、一緒に避難訓練を行うなどの働きかけをし、地域との協力関係を今以上に築かれることを期待します。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した暮らし、地域住民との交流の下、子々孫々に至るまでの付き合いを大切に、家庭的な生活の中でその人らしく暮らし続けることを目指した理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングでは、これらを話し合い、意識づけを行い、日々の業務の中で理念を活かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時の挨拶やお喋り、地域からの野菜や花の差し入れなどの馴染みの関係を築いている。町内会の行事の溝掃除などには、職員が積極的に参加している。年一度の「楓まつり」には、地域の人がボランティアとして参加したり、地元の人を招待して交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義について、職員全員への周知徹底は今少しであり、職員全員で自己評価に取り組むことは大切だと思われる。		サービス評価の意義や目的を運営者や管理者が職員にわかりやすく伝え、全員が前向きに自己評価に取り組むことで、ケアの振り返りや見直しにつなげ、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、市及び地域包括支援センター職員、家族代表、町内会長、民生委員が参加し、利用者の近況やヒヤリハットの内容や研修や評価の概況報告を行い、また会議で出た参加者からの意見や要望、地域の情報をサービスの改善に向けた取り組みに具体的に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも勉強会(タウンソーシャルワーク)で市職員と交流したり、また市の担当課を頻りに訪問して相談するなどして情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常生活の様子や健康状態が伝わるように、毎月、「できること・いいこと」など、きめ細かい近況報告を手紙を添えて、「かえでだより」と共に家族へ送っている。また、いきいきした状態が伝わり安心されるように、毎月、一人ひとりの様子が分かる2~3枚の写真を選び、個別のアルバムを居室に置き、いつでも自由に見ることができるようにしてある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族会や、二ヶ月ごとの運営推進会議の時に家族から率直な意見を出してもらい、運営に反映できるように努めている。また、家族が思いや気づきを遠慮なく伝えられるように苦情・相談箱も設置している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	二つのユニットはオープンで自由に交流し、職員は18人の利用者全員の申し送りを聞き、申し送りノートを必ず見ることによって情報を共有し、顔馴染みの関係になっている。グループホーム全体でひとつの家族のような思いがあり、異動や退職による利用者のダメージを最少にする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士で教えあったり、研修へも積極的に参加するなど職員の質の向上に努めている。研修資料の回覧やミーティングでの研修報告で情報の共有をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の地域密着型サービス施設が持ち回りで二ヶ月に一回開いている勉強会(タウンソーシャルワーク)には、地域包括支援センター、行政職、民生委員なども出席して情報や意見の交換、相談などの交流があり、ネットワーク作りが出来ている。他のグループホームへの訪問等の交流も行われており、楓まつりには来訪もあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心して納得してサービスを利用できるように、入居前から会いに行き顔馴染みの関係をつくり、入居初日には、訪問して顔馴染みとなっている職員がワンツーマンで対応し、話しをすることで、ゆっくりと場の雰囲気に馴染める工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑仕事や料理を教えてもらう場面を積極的につくり、できることを手伝ってもらい、職員と利用者が一緒に行動し、共に助け合う関係を大切にしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、日々の寄り添いや会話の中から、汲み取るように努めている。面会時など家族からも情報を得るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員が作成した介護計画を定期的なスタッフミーティングのなかで意見交換し、一人ひとりの希望に沿った暮らしができるように、本人の意向や家族の要望も取り入れ個別の具体的な介護計画を作成している。看護職員による医療面の留意点なども介護計画に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月ごとのカンファレンスで見直しを行うと共に、状態の変化があった場合は、職員の気づきや情報を確認し、本人や家族の意向や要望に応じて新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りなどの要望は、家族の思いも聞いて確認し、勤務体制を変更して対応したり、2～3人の少人数での外出も何回かに分けたり、同法人の小規模多機能へコンサートを聴きに行ったり柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医への受診は、基本的には家族に付き添いをお願いしているが、急な時は、スタッフが同行したり医師とも密接に連携を図るなど、適切な医療を受けられるように支援している。また、定期的に、協力医療機関からの訪問診療も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は、入居時に文書で確認すると共に、折に触れて家族と話し合いを繰り返し、関係者全員で方針の共有を図っている。		看取りの経験を活かして、重度化した場合や終末期の対応についての勉強会や意思統一のための準備など、更なる体制づくりに期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに敬意をもって接し、その人自身の生活暦を把握し考慮した言葉使いや対応を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のマニュアルやルールは決めないで、起床や食事、入浴時間など、一人ひとりの家庭と同じ生活リズムを大切にしながら暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや旬の物を考慮して、スタッフで決めて、食材の買い出し、料理の準備などは利用者と共に、職員も一緒に食事は、家庭的団樂の楽しいものとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は、利用者の希望にそって、自由に入浴できるよう支援体制ができています。ときには、気分を変えて「温泉へ行く」と言いながら、2階のユニットでの入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状態にあわせ、食材の皮むきや料理、自分のだけでなく、他の利用者の後片付け、訪問者へお茶をだすなど、本人が活躍できる場面づくりが積極的に工夫されている。また、職員によるさりげない支援もなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの要望があれば、他の利用者にも声かけをし、少人数でもスタッフが、何回かに別れて同行したり、車椅子でも日常的に戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除いて日中は常に開放しており、利用者が自由に入出入りできるようにしている。職員はチャームでそれとなく見守り、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応についてはマニュアルが作成しており、年一回の訓練も行っている。地域の中学校で行われる広域的な避難訓練には、職員も参加している。		職員だけの誘導には限界があり、地域の人々の協力は不可欠である。運営推進会議などで、地域の消防団や住民へ呼びかけ、一緒に避難訓練を行うなどの働きかけをし、地域との協力関係を築かれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶は自由に飲めるようテーブルに置いてあり、また一日二回のお茶タイムには、職員が決めるのではなく、利用者一人ひとりが飲み物を選ぶように支援をしている。一日の水分量の確認や毎月の体重測定により、入居者の健康状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中ほとんど過ごされるソファのある居間は、明るくゆったりしている。続きに和室もあり、家庭の居間の感覚で居心地良く、くつろげる共用空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや、入居者によっては仏壇を置かれているなど、家庭と同じように安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 楓 (いちごユニット)

評価年月日 2008年 11月 1日

記入年月日 2008年 11月 4日

記入者(職名) 介護スタッフ(氏名) 青木由紀子 他

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念は各ユニットに掲げ、スタッフ一同常に心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング時など、常に理念にもとづいて判断するよう話し合いをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	1ヶ月に一度『かえでだより』を発行しています。また家族会などでも、どのような暮らしをしていただいているか伝えている。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	お散歩のとき挨拶をしたり、ご近所から季節の花をいただいたり、気軽に親しみのあるお付き合いをさせていただいています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	回覧にて案内のあった行事には利用者様と一緒に参加している。溝掃除なども必ず参加する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域へのかかわり方など月一回のミーティングなどで話し合いを行っている。		周囲の人皆さんにいつでも寄って下さいとアプローチしている。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価は全員で話し合い、指摘事項などの改善に取り組んでいる。		自己評価及び外部評価は常に玄関に置き皆さんに見ていただけるようにしています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族や地域の方々の提案は、ミーティングや申し送りで共有化し改善して行く。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	常に介護保険課をはじめ行政の方に相談することにより、サービスの向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度情報を集め資料を回覧し、スタッフが学習し、場合によってはご家族に説明をしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対する勉強会を社内で行い、またミーティングや申し送りで全員に徹底している。		虐待は絶対無いよう社内研修を継続していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には管理者だけでなくスタッフも同席し、これから入居いただくなかで不安なことがないように十分説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	玄関に苦情ボックスを設置しています。日々の暮らしの中で『困ったことは無いですか』とよく声かけをするようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一回、自筆のお手紙でご家族に暮らしぶりを報告している。健康状態などの細かい変化は密に連絡している。スタッフの異動も連絡している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	『何かあればどのスタッフでも伝えて下さい』と日頃からお伝えしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回のミーティングの場では必ず最後にスタッフが意見を言う機会を作っている。		もっとスタッフと管理者が意見を言い合える場をつくって行きたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化によって、シフトの時間は柔軟に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動があっても不安がないようにユニット間での行き来は頻繁にしている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>スタッフ同士で教えあったり随時、研修に行くようにしている。研修の情報も回覧で全スタッフにながしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の行事やネットワークに参画し交流をする機会を設けている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングなどで『困ったことや悩みはないか』管理者からスタッフに質問する場をつくっている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>スタッフ個々の努力や実績で把握しきれない所はリーダーなどを通して把握するようにしている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご本人に直接聞くことが難しい場合、表情をヒントに困っていることや不安なことを理解する努力をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	最初の話し合いの中で本人と別の場所で『心配事』などないか聞いて、ご家族の心のケアもしていくようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談があったときはすぐスタッフ同士で話し合いの場を設け解決に努めるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	どんな暮らしをしていただくのか、事前にスタッフ同士で話し合い持込んでいただくものをご家族と相談しています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をするのではなく、お手伝いをさせていただくという考えで接して行く。		『歩きたい』という思いの方が一歩でも歩けた時、一緒に喜び楽しんで行くよう心がけている。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	去年まで出来ていたことが出来なくなったしまった時など、辛いことを共に分かち合いながら出来ることを見つけ出して行くようにしている。		つらいことも楽しいことも同じ家族としてわかちあって行くようにして行きたい。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の家族に対する思いを時には代弁してお伝えしていくようにしている。		普段聞けないような言葉を伝えて行くことでより良い関係が築いていけたらと思う

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人が『行きたい』と言われる時や調子がいいときに、好きな場所のお連れして出来るようにしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>歌やレクレーションを通じて皆で何かをする機会をつくっている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>イベントの案内を通じ関係が続くよう取り組んでいます。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>カンファを開いたり、その方がどのような暮らしを望んでいるかをスタッフ同士で話し合うことで考えていく機会にしている。</p>		<p>スタッフ同士で一人ひとりの暮らしのご要望を考えて行く機会をつくっていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご入居前の事前面接などを通してカンファを開きスタッフ同士で把握していくようにしている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>毎日の記録、スタッフ間の情報交換を密にしてご本人との会話のなかから暮らしぶりを把握していきます。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成を通して本人がどうしたいと思っているのか、ご家族はどのような思いなのか話しあって行くようにしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化があった場合などは、スタッフで話し合いをし、その結果を家族に伝えどうして行くか決めている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録や申し送りノートなどに記入しスタッフが気づいた情報などを毎日全スタッフが確認する。		まずは今いるスタッフで話し合う。その上で申し送りノートを活用する。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	必要あれば情報交換をしたり支援していただいている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員さんとの連絡も必要に応じてとるようにしている。ボランティアさんにも協力していただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居後も、地域の他のケアマネージャーと連絡を取りながら本人にとってどのような生活がいいのか考えている。		他のサービス事業者やケアマネージャーと話し合っていくようにしたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	協力して本人の思いに添っていくようにする。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人の状態変化を把握して行くようにし、ご家族とも話し合いながら主治医に相談、対応していただくようにしている。		スタッフがご家族を通じて主治医と相談するなどして適切な支援を受けられるようにしていている。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医と関係は築いているが、あまり頻繁ではない。		もっと専門医と関係を濃くしていき、認知症にたいして適切な関係をつくりだしていくようにしたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連絡をとり、情報交換をし相談をしていっている。		スタッフが入居の方の変化に早く気づいていくようにし、看護師の適切なアドバイスをタイムリーに頂くようにしていく。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院してからもどのような状態なのか、いつごろ退院できるのかなど直接病院に足を運び聞いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居契約時に重度化したときなどを考え、どうするかご家族の思いを聞くようにしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ご本人の状態などありのままを受け止めて行き、どこまでできるかを考えて行き医師に相談している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>どのような暮らしをしてきたのか、今後どのようなサービス、ケアをしていって欲しいなど、細かく情報提供していく。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>声かけにも気をつけており、その人自身の生活にあった言葉遣いをしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとり声かけや話す内容、スピードを変えてご本人に出来るだけわかりやすくお伝えするようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご入居の方の暮らしが第一。という考えのもと日々過ごしていただいている。</p>		<p>スタッフが少なくどうしてもスタッフの都合で物事がすすんでしまうのでそのようなことがないようにしていきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	どのような髪型にしたいか本人にお聞きし、本人が望むような髪型にさせていただけるようにしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや味付けなど下準備から手伝っていたき、その日の食事を一緒に楽しんでいる。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこを吸う人、好きなおやつを何よりも楽しみにしている人などその人にあった支援をしています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意が難しい人も排尿パターンを把握し、2時間おきにリズムを作ってトイレにお連れしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご自分で決めて入浴いただいておりますが、スタッフが決めてしまっているケースもある。		全員が自分の思うように入浴していただけるようにして行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が寝たいとき、休みたいときにゆっくりしていただけるように、できるだけ自由に過ごしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理や台所仕事が好きな方には食器洗いをお任せしたり、それぞれの方の得意分野で役割をもつていただくようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と話し合った上で、ご本人にお金をもつていただき、自分で好きな物を買う機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	『散歩に行きたい』、『買い物に行きたい』というご要望には一緒に出かけていっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	月に一回行事として普段あまりいけない遠くにドライブしたり、お出かけの機会をつくっている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話する人はいませんが、年賀状などは毎年何人かの人は書いておられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	24時間いつでも訪問していただけるようご家族にもご案内している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや申し送りで再確認していきながら身体拘束がないよう注意している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関にも防犯のため夜22時以降の鍵を除き、鍵はかけておらずほぼ毎日玄関ドアは閉めずにオープンにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	18名の方がどこにいらっしゃるか、日中の全スタッフが把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全なものに代用したり見える位置にあえて置くことでスタッフ自身も把握していくようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	『ヒヤリ・ハット』に記入し、情報を共有化し防止していくようにしている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	入社時、社内研修を行っています。消防訓練も定期的におこなっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練は受けているが突然起きたときに的確に動けるかどうか不明。地域との連携がもっと必要。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	予想されるリスクを事前にご家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りノートや介護記録を通じて把握していき、早期にご家族への受診の相談などをおこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の情報を理解し、副作用などを調べ知っておくようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	牛乳、ヤクルトなどの乳製品を飲むようにし、何日目でどのような対応をするのか、表で管理している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝しかされない方や毎食後される方など頻度はさまざまですが、本人に負担とならないように声かけをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分量は記録につけるとともに食べ物なども好 みや量を工夫しつくるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルに基づいて実行しています。		経験の浅いスタッフにはマニュアルをしっ かり読んでもらうため、その機会をつくる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	アルコール消毒などで除菌し、魚と肉のまな板 を区別することで食中毒を防止している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のアプローチには絶えずお花を植えてお り、玄関のドアはいつもオープンにしており親 しみやすくしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングには絶えずお花があり、トイレ なども少しドアを開けていて分かりやすくして いる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや畳の和室があり入居者さん同士がお話しをする場になっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆さん使い慣れたタンスや服を持ってこられており一人ひとりの居室にそれぞれの個性が現れている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気などは毎日、窓を開け、気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング内にも手すりがあり、段差もなくゆっくりご自分のペースで歩くことが出来る環境をつくっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱することのないよう、トイレにはイラスト入りの札をつけるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ウッドデッキでティタイムを楽しんだり、お庭で花を育てたりしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 楓 (りんごユニット)

評価年月日 2008年 11月 1日

記入年月日 2008年 11月 4日

記入者(職名)介護スタッフ(氏名) 片岡 都志恵 他

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念は機会あるごとにスタッフと話をしています。ホーム内に掲示しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念や運営方針をリビング、スタッフルームに掲示し常に意識するようにしています。ミーティング時や日常業務の時もこの方針に照らし合わせて判断しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	1ヶ月に一度『かえでだより』を発行しています。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会にも加入し、地域の行事に積極的に参加しています。お散歩の時などもお話をし、ご近所の方と親しくなれるよう心がけています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	年に一度の『楓まつり』にご招待したり、ボランティアをお願いしたりしています。溝掃除などにも出席しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方からのご相談や、困ったことなどいつでもお受けしています。		いつでも相談できる楓となれるよう、地域での告知活動に取り組んでいきます。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は現場で働いているスタッフ一人ひとりが記入し評価を意識し次に生かしていくようにしています。		自己評価及び外部評価は常に玄関に置きご家族の方やお客様、皆さんに見ていただけるようにしています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事など今ホームで取り組んでいる事などをお伝えし地域の方にご協力をお願いしたり、ご意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいます。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必ず介護保険課の方に同席いただき、どうすれば良いか悩んでいる問題など一緒に考えていただくことにより、サービスの向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	情報を集め資料を回覧し、スタッフが学習し、場合によってはご家族に説明をしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対する勉強会を社内で行い、マニュアルを作成済み。		虐待は絶対無いよう社内研修を継続していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明や話し合いを行っています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	玄関に苦情ボックスを設置していますし、利用者様やご家族が気軽に何でもスタッフに話せる環境をつくっています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一回、自筆のお手紙でご家族に暮らしぶりを報告していますし、日常的に連絡は密にしている。		スタッフの異動等も連絡するようにしたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヶ月に一度の運営推進会議にご家族に出席していただき意見を聞いている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回のミーティングの場で意見を聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化によって、シフトの時間は柔軟に対応している。		スタッフを常に募集し、十分な対応が出来るだけのスタッフを確保し続けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動の際には前もって本人と話し合いもつようにしている。離職の際にもお互い納得できるまで話すよう努めている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の機会を作るようにしている。講習やトレーニングの案内や情報を発信している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>勉強会を開き参加を呼びかけている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談を行い意見を聞くようにしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>努力や実績に応じた評価をしている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>相談・面談を行い安心して入居していただけるように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	センター方式に沿って、ご本人様の気持ちを汲み取るよう、じっくり話を聴くようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族、それぞれの話を良く聞き、他のサービスも含め、ニーズにあった提案をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	今までの暮らし、雰囲気を壊さないため、馴染みの物などを出来るだけ持込むようご家族と相談し工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ただ単に歌を歌うのではなく、スタッフが教えていただき、一緒に楽しめるような環境の維持に努めている。		料理なども利用者様に教えていただき一緒に作っていますが、今後も継続していきたい。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	頻繁に連絡をとり、情報の共有化に努めているし、またご家族との話し合いの機会もできるだけ設けるようにしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来られたときは必ず情報提供をし、最近の様子をお話するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の馴染みの場所へお出かけをしたり、馴染みのお店のもををご家族に買っていただいたりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎月、行事を行い利用者様同士、一緒に楽しく暮らせるような機会を作っている。		料理などの下ごしらえも利用者様同士で分担し話し合いながらしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	毎月の『かえでだより』やお手紙などで、祭りやイベントの案内を通じ関係が続くよう取り組んでいます。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時間、食事時間などご本人の好きな時にしていただけるよう一人ひとりの暮らしのパターンに対応できるよう努めています。		ご本人の思う時に、思う事をしていただく
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアマネージャーとの連携やご家族との話し合いを何度も重ねることで生活環境などの把握に努めています。		実際に生活されていた場所に出かけ、暮らしや環境などを把握している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録、スタッフ間の情報交換を密にして把握しています。		毎日のバイタルチェックだけでなく顔色や口調などの異常は即刻対処するように努めています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフミーティングを定期的を持ち、それぞれの意見を反映した介護計画を作成しています。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランに基づいて見直しするとともに随時見直し、手直しをして新たな計画を作成しています。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の経過、結果、気づきなど介護記録に残し、次の計画見直しに活かしています。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族や地域の方、ボランティアさんによる支援や、ホーム内にとどまることなく外部との連携で柔軟な支援をしています。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を活用し、地域資源との協働をはかっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	近所のグループホームや小規模多機能ホームとの連携を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域からの相談やホーム内の困難事例等、地域包括支援センターと常に協働し対応しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご家族やご本人の希望を大切に、よく話した上でかかりつけ医を決めている。また常にかかりつけ医と相談し支援しています。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科医、精神科医と常に相談しながら医療サービスを受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	社内の看護師・准看護師との相談は勿論のこと、かかりつけ医との連絡を密にし、健康管理を行っています。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医や関係者、ご家族との相談や情報の共有化により早期退院に向けた環境整備を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>医師の判断ができた時点で緊急ミーティングを行いホームとしての思いを家族に伝える。最終的には家族や本人の意志に添うようにしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医師と連携しホームで暮らしていただくには何が必要か一緒に考えて行きます。</p>		<p>グループホームとしての限界までスタッフ一人ひとりが努力していく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>ご家族・ご本人とよく話し合い、転居先や住み替え先様への情報提供を密にしています。</p>		<p>医師やケアマネージャーとの連携を強化する。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>まずは敬意をもって接するとともに個人情報の取り扱いは慎重におこなっています。</p>		<p>個人情報は必要以上に持ち出さない。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>全てご本人の思いに添って物事が決定できるよう声かけをして行く。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>まず、ご本人の思いを聴きながら行動に移します。</p>		<p>スタッフの都合でなく、ご本人がどうしたいか、を声かけにより聞き出す。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型は本人と理容師さんと直接お話をしてきめています。また季節によっても変えています。		伝える事が難しい人はスタッフがフォローしながらご本人の思いを伝えるようにしている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の煮物を好まれる方が多く、スタッフと一緒に炊くようにしています。味付けも上手にしています。		スタッフはあくまでもフォローに回っています。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は多く種類を用意し、おやつや果物も自分で選んで頂くようにしています。		入れ歯の方には食べやすいものを選んでいただくように何種類かお出しします。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	布パンツをしようしていただけるよう、声かけや時間を決めてトイレにお誘いしています。		スタッフが一人ひとりのパターンを把握しています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の声かけをしたとき『後でいい』といわれた場合はご本人の好きな時に入ってくださいようにしています。		皆さんの入浴のパターンを把握しています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	寝たいときにゆっくり休んでいただくようにしています		うとうとされている時など声かけにより横になっていただいています。ご本人の好きなようにしていただいています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	家事など慣れたことは手伝っていただいています。花を育てたり、歌、行事、レクリエーションで楽しんでいただいています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談の上、持っていただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	日々の買い物に同行していただいたり、朝夕の散歩をしたり、また欲しい物があればスタッフが一緒にお買い物に同行します。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行事計画をたて、花見に行ったり、2～3人でドライブに行ったりしています。全体の合同お出かけも行っています。		一人ずつ希望をお聞きし、出かけられる機会をもっと作って行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	はがき、切手を常備しご要望に応じて手紙のやり取りができるようにしています。電話はホームのものを自由に使用いただいています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問は24時間いつでもお気軽にどうぞ、とお受けしています。心よりおもてなししています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束(言葉の拘束も含め)について社内で学習しています。拘束は一切行っていません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵は夜間、玄関のみかけています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者様の様子がわかるよう自分の位置に気をつけています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	排除するのではなく危険が無いよう配慮しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、社内研修で内容を把握するようにしています。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	応急手当の社内研修を行っています。消防訓練も定期的におこなっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルに添って対応します。避難訓練を定期的実施し緊急時に対応できるようにしています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族とリスクと自由な暮らしに対する話し合いをことある毎におこなっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	いつもと変わった様子のあるときはその都度、電話にて報告・相談をしています。ユニット専用ノートを置き情報を共有化しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援はスタッフがおこなっています。薬局から頂いた薬の内容、説明書きを必ずファイルしていつでも確認できるようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	牛乳を飲んでいただいたり、水分をしっかり採っていただいています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時や食後、声かけを行っています。状態に応じた個々の支援をおこなっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	いつでもお茶を飲んでいただけるようリビングのテーブルの上に急須と湯呑を置いています。個々の食事の状況を把握し、状態に添った支援を行っています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルに添った対応を行います。		経験の浅いスタッフにはマニュアルをしっかりと読んでもらうため、その機会をつくる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理道具等の消毒を行い衛生管理を行っています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植え、家庭的な雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった貼り絵、ぬりえなどを飾ったり、楽しい写真をたくさん飾り、暖かい雰囲気をつくっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室などで思い思いに過ごしていただいています。草木染ののれんなど家庭的な装飾にしています。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	くつろぎの場としてウッドデッキや和室などがあります。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	エアコンは勿論、空気清浄機、加湿器などで、気温・湿度を調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりを設け、トイレ・洗面所も使いやすい工夫をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	イラストのトイレの目印により混乱はありません。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	野菜作り、水撒き、草取りなどを行っています。楓農園快調です。(きゅうり、トマトなど)		ウッドデッキなどでティータイムを楽しんでいただくようにします。